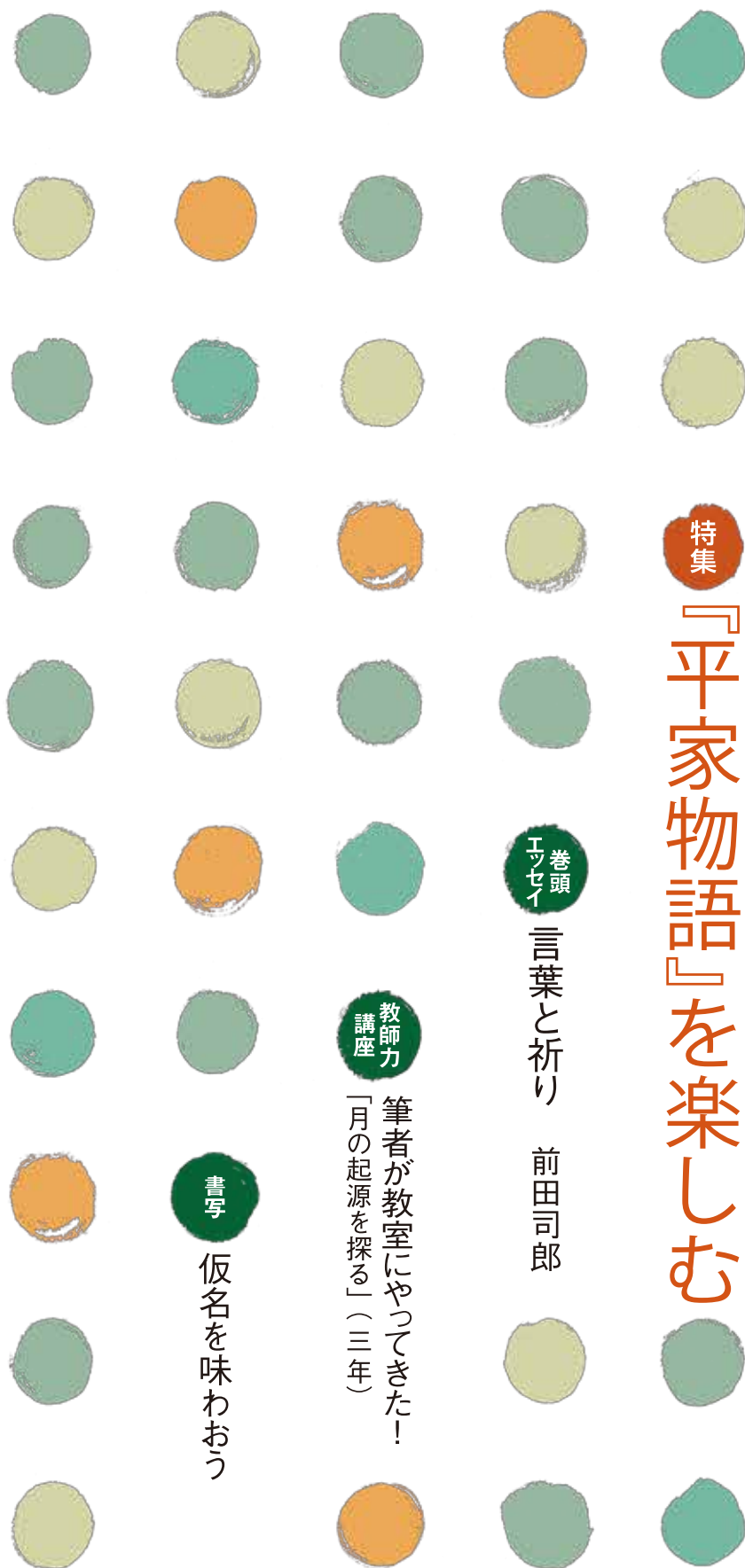




特集

『平家物語』を楽しむ

巻頭
エッセイ

言葉と祈り

前田司郎

教師力
講座

筆者が教室にやってきた！
「月の起源を探る」（三年）

書写

仮名を味わおう

板書の文字， 気になったことはありませんか？

板書している最中、「あれっ、この漢字の筆順はこれでよかったのかな」など気になったことはありませんか。気になる筆順や点画・字形の書き方は常にチェックしておきたいものです。本書は、国語科書写の教科書に掲載されている、点画の書き方、筆順、字形のポイント、行書の書き方などをふまえ、これらがひと目でわかるように編集されています。書写の指導資料としてはもちろんのこと、毎時の授業における板書文字のチェックには最強の味方になってくれるはずです。（宮澤正明／山梨大学教授）

好評発売中！

新・字形と筆順

光村図書の書写ハンドブックの決定版！
21年続くロングセラーが、リニューアルして登場
新常用漢字（2136字）に書き文字で対応



- 光村図書「書写」教科書編集委員による手書きの文字
 - 教科書体活字に即した書きぶり
 - 全文字に間違えやすい部分に配慮した筆順分解を提示
 - 日常に役立つ、毛筆楷書、硬筆楷書、硬筆行書の3種を提示
 - 字形のポイント、許容についての図示
- ☆付録として「筆順チェックシート」も！

宮澤正明 編

定価1,890円
360ページ 四六判
ISBN978-4-89528-679-4



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.154 2013(平成25)年9月12日発行 定価126円(税込)
発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所＝株式会社 加藤文明社 デザイン＝岡田真理子 (mg)

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

若人、いざ

早稲田大学教授
森山卓郎

先日、授業でちょっと余った時間があつたので、「青年、若者、若人」が男女いずれかを聞いてみた。すると、全員が「青年」というのは男ではないかという。「若人」についても男ではないかという意見があつた。「青年海外協力隊」「青年の家」みたいに、集合として言う場合は男女両方を指すが、「一人の青年が歩いてた」と書いてあつたとなると、確かに男を想像してしまうような気がする。「青年」を辞書で引くと、「年の若い人。青春期にある男子、また女子。多く、一四、五歳から二十代くらいの時期の人をいう。」（小学館『日本国語大辞典』第二版）という記述もあるが、「青春期の男女。10代後半から20代の、特に男子をいうことが多い。」（小学館『大辞泉』第二版）のような記述もある。「青年」には男女での偏りがありそうだ。ちなみ

に「少年」もそうだが、「少女」という言葉がある。「青年」に対して「青年」はない。「若者」「若人」についても男女の偏向を検討してみる必要がある。ついでながら「青年、若者、若人」がそれぞれ何歳かも聞いてみた。ほんの17人のデータなのだが、参考までに紹介すると、各々の最低年齢と最高年齢は、青年で162―268歳、若者で140―299歳、若人は125―278歳だった。中央値はほぼ21歳くらいで基本的なイメージは重なる。若くてもいいのは「若人」のようで、「青年」は範囲が狭い。私の中学校の校歌には、「若人」という言葉があつたから、「若人」には中学生も入る。逆に、「集え、青年」のような表現のある中学校校歌はなさそう。では「若い人」はどうだろう。インターネットの用例を見ると、「会員を増やすために若い人に声をかけまし

た」みたいな例があつた。ただ、その会とは老人会。「老人会では、若い人はラジオ体操を……」のような表現もできる。「若い」という性質は相対的なのだ。そして、「若い人」という「語を組み合わせた表現」の場合、「若い」という語の意味が生きてさえいれればいい。だから、老人会の会員でも「若い」ことはある。一方、「若者」「若人」は一つの単語として意味が特殊化しているのだ、老人会には入れない。さて、私の中学校の校歌の「若人」は、もちろん両性でなければならぬ。そう思つて懐かしの校歌を歌つてみた。「♪集い来し若人、いざ、ふーふーふっふふーん」。あれ？ 記憶が薄れて、途中からハミングになつてしまふ。「若人」であつたのははるか昔でも、考えよつによつてはまだ「若い人」。いざ、がんばろう！

CONTENTS

探検！言葉の森21 若人、いざ 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 言葉と祈り 前田司郎

特集 04 『平家物語』を楽しむ

対談 『平家物語』はおもしろい！ 宗我部義則×青山由紀

実践事例1 群読で表現しよう 宗我部義則

実践事例2 『平家物語』の列伝をつくろう 新しい指導を考える会

教師力講座 特別編 14 筆者が教室にやってきた！「月の起源を探る」（3年） 甲斐利恵子 小久保英一郎

書写の世界を広げよう2 20 仮名を味わおう 鍋島稲子

言葉と祈り

小説家・劇作家

前田司郎

両親は「口先男」と僕を呼んでおりました。「口から先に生まれた男」という意味らしく、よく喋ることを揶揄して呼んでいたみたいです。よく喋るのは量ではなくて、質の方でして、口ゲンカが得意というか、屁理屈が得意だったのです。それで幼い僕は自分は言葉を使うのが得意だと思い込み、だったら小説も書けるだろうということで、小説家を目指したのです。

当時は、口語と文語の違いがよくわからなかった。今もあまりよくわかっていませんが、喋る言葉と、書く言葉はどうも違うようなのです。

そして戯曲は不思議です。喋る言葉を書き、書いた言葉を喋るのですから。

僕の仕事としてのキャリアは、劇作家として始まりました。喋ることをそのまま書けば戯曲になるのだからこんな楽なことはないと、安易に考えていたのだと思います。ところがそうも行かない。不思議なことに、喋る言葉を連ねていつても戯曲にはならないのです。

なぜなら戯曲には流れがあります。日常のおしゃべりにも流れはあるでしょうが、戯曲の流れは物語と呼ばれたりする流れのことです。

日常の会話に比べ、戯曲上の会話は圧倒的に情報量が多いのです。これは文語と口語の違いとは少し違う話ですが、そこに帰結するのならばらくお付き合ってください。

簡単な現象で言うと、戯曲中の人物の方が実際の人物よりもたくさん喋る傾向にあります。また、戯曲の人物の話す

もののだ、という考え方もあるでしょう。しかし戯曲に書かれた言葉は、やはり書き言葉であり、俳優の身体を通してはじめて話し言葉になる。その変態が上手く行かないと、書き言葉を話す変なお芝居が出来上がるのです。俳優の身体の中で起きている不思議な変化、書き言葉が話し言葉になり、まるで文字が生命を得て蝶のように飛んでいく、その瞬間を僕たちは興奮して眺めます。

まるで言葉が生きているように見える

言葉は、日常の人物が話す言葉に比べて、目標が少し遠くにあります。それはどういうことかと言うと、日常の私たちは頭に浮かんだことを、例えば「お腹減ったね」というように話すわけですが、このとき、私たちの頭には『お腹が減ったからご飯が食べたいのだけど一緒にどうですか?』とか、もしくは『あなたとご飯が食べたいです』とか、そういう程度の目標をもつて話します。

戯曲中の人物はもう少し先を見ています。「お腹減ったね」「え? そう?」「どっかご飯食べに行かない?」「うーん」「あ、じゃあ帰ろうか」とか。戯曲上に未来は書かれておりますから、未来(ここでは、一緒にご飯を食べに行くのを諦める未来)をどうしても意識してしまいます。作家はただ喋るべき言葉を今まさに書いているようであり、実は未来を見ながら喋る言葉を書いている。

仮に、実際におしゃべりしているところを録音して、文字に起こすとします。それで戯曲になるかというところになります。

僕が小説も書きます。大して上手い文章じゃない。それでも書かずにはいられない。仕事が無くて僕は書きます。これはなんなのか。僕にとって書くことは祈りに近いのじゃないだろうか。

喋る言葉、小説の言葉、これは誰かに見せるための言葉です。祈りの言葉は誰かに見せるためにあるわけじゃない。神のような存在と話すための言葉でしょう。ならば僕の文章が祈りであるためには、誰かに見せるために書いてはいけません。いけないけど、結局それでお金をもらうわけだから、最終的には見せる。でも、見せるために書かない。でも、見せる。今僕はその辺をグルグルまわっています。

このとりとめもない文章は一体、誰に向けて書かれたもので、何のために書かれたのでしょうか。よくわからないのです。

す「しかしおもしろくはない。それは「水溜り」ではあっても「川」ではないのです。先ほど戯曲には流れがあると申しましたが、これは私見であって、流れない戯曲もあっていいでしょう。「水溜り」のような戯曲でもおもしろいものはあるでしょう。しかし、きつとそれは、作家の意思が入った「水溜り」であり、日常の会話そのものとは違うはず。もう少し詳しく話します。日常の会話と戯曲の会話の違いの中で、僕が大きいと思うのは、そこに見せよう聴かせようとする意思があるかないかだと思うのです。戯曲は見せる聞かせることを前提に書かれていますから、当然、未来を想定しながら書かれています。望む結末に向けて恣意的に言葉が選ばれています。これは日常とは大きく違うことです。そしてその違いこそ、文語と口語の違いでもある気がするのです。まあ、戯曲とはそもそも口語で書かれ

前田司郎
まえだしろう

小説家・劇作家・演出家・俳優。1977年東京都生まれ。97年に劇団「五反田団」を旗揚げ。2005年に「愛でもない青春でもない旅立たない」で小説家としてデビュー。08年に戯曲「生きるものはいないのか」で第52回岸田國士戯曲賞を、09年に小説『夏の水の半魚人』で三島由紀夫賞を受賞。



特集

『平家物語』を楽しむ

古典教材の定番ともいえる『平家物語』。平成二十三年度より、子どもたちは小学校五年でも『平家物語』を学ぶようになりました。小・中の連携をどう考えればよいのか、中学校で魅力的な授業を展開するためにはどうすればよいのか。現場の先生方の対談を中心に探っていきたいと思います。

撮影：鈴木俊介



『平家物語』はおもしろい！

お茶の水女子大学附属中学校教諭
宗我部義則

中学校の現場でさまざまな実践をされている宗我部先生と、今春『古典が好きになる』（光村図書）を上梓し、小学校で楽しい古典の授業をされている青山先生に対談をしていただきました。『平家物語』を使って小・中でのような授業が考えられるか、『平家物語』の教材としての魅力は何かなど、熱く語り合っていました。

筑波大学附属小学校教諭
青山由紀

や、「祇園精舎」^{ぎおんしや}「沙羅双樹」^{しやらそうじゆ}等の難しい言葉は写真などの資料を使いながら説明します。また、デジタル教科書に収録されている琵琶奏者^{びわ}による語りの動画も見せるようにしています。子どもたちが語りをまねて、教室が盛り上がるんですよ。「ぎいーおーんしよおーんじやーんのおー」って（笑）。

「語り」のよさ

宗我部 小学校では『平家物語』をどのように教えているのでしょうか。

青山 やはり『平家物語』との初めての出会いを楽しいものにしたと思っていますので、声に出して読ませ、独特の調子やリズムを体で感じさせるようにしています。小学校の教科書には『平家物語』の冒頭部分に掲載されているので、作品の歴史的背景



▲琵琶奏者による語りの動画。中学校「国語デジタル教科書」に収録されている。



言葉のリズムに 躍動感があり、 音読すると気持ちがいい。

(宗我部)



そが べしりのり
宗我部義則

埼玉県生まれ。お茶の水女子大学附属
中学校教諭。お茶の水女子大学非常勤
講師。国立教育政策研究所「教育課程
実施状況調査問題(中学校国語)」作成
および分析委員。平成20年告示「中学
校学習指導要領解説国語編」作成協力
者。編著書に「群読の発表指導・細案」(明
治図書出版)など。光村図書 中学校「国
語」教科書編集委員を務める。

宗我部 目に浮かぶようです(笑)。
青山 琵琶の音色に合わせて語る、という
ことが、子どもたちにはイメージしにくい
ので、音声を聞かせることはとても大事だ
と思っています。最初は勢いよく早口で音
読していた子どもたちが、動画を視聴した
後は、一つずつ音を伸ばしながら力強く語
るようになります。

宗我部 中学生に冒頭部分の音声を聞かせ
ると、「先生、この調子ですつと続いてい
くんですか」と質問してくる生徒がいるん
です。ですから、「本編に入ると、もつと
速くなったり、語るような調子になったり
するよ」と話し、他の部分の音声も聞かせ
るようにしています。教科書にはいろいろ
な古典が取り上げられていますが、『平家
物語』ほど、言葉のリズムに躍動感がある
ものはないと思います。生徒たちに音読さ

せると役者がかってくるんですよ。時代劇
のような語り口で読みながら、自分にほれ
ぼれしているのがわかります(笑)。
青山 声に出して読むと、いい気持ちにな
れるのは『平家物語』の魅力ですね。そ
れはやはり「語り」の強さなのかなと思
います。

群読のおもしろさ

宗我部 「扇の的」で群読をさせると、最
初は尻込みしていた生徒が、練習が進むと
だんだん乗り気になってくるんです。自ら
「与」役をやらせてくれ」と言ってきたり。
青山 それは小学生も同じですね。最初は
嫌がっていたのに、実はひそかに与一の
せりふを練習していたりする(笑)。小学
校の教科書には『平家物語』の冒頭部分の

みが掲載されているのですが、私は戦いの
場面にも触れさせたいので、なるべく時間
をつくって「扇の的」も取り上げるように
しています。ただ、小学生に群読をさせる
のは難しいので「役割読み」にしています。
配役を決めて、みんなで声を出す楽しさを
味わわせるんです。役割読みをすると、情
景を頭に浮かべることができるようですね。
自然と子どもたちが乗ってくるので、楽し
い授業になります。

宗我部 中学生になるともう少し踏み込ん
で、登場人物の心情を読み取って、それを
声でどう表現すればいいかというところま
で考えさせます(宗我部先生の群読の実践
はP10-11を参照)。配役を決めた後、「ど
んなふうに残らいいのか」「このとき
の与一はどんな気持ちだったんだろうか」
ということを生徒たちに話し合わせます。

例えば、与一が目を閉じて「南無八幡大菩
薩……」と祈念する場面。この長いせりふ
をどう読めばいいのか話し合わせたところ
「与一は本当に声に出して言ったのかな」
と発言した生徒がいました。私がすかさず、

「心の中の声なのだとしたら、どんな読み
方をすればいいんだろう」と投げかけると、
生徒たちからいろいろな意見が出されて授
業がとても盛り上がりました。『あの扇の
真ん中射させてたばせたまへ』にいちばん
思いが込もっているの、ここを強く読ん
だほうがいい」「与一の覚悟が感じられる
『弓切り折り自害して』を強く読んだほう
がいい」「いや、『この矢はづせたまふな』
だ」など、さまざまな意見が出されました。
青山 なるほど、おもしろいですね。心情
に迫るというのは、中学生だからできるこ
とだと思います。小学生だと、与一はあく

までお話の中の登場人物。自分と重ねて心
情を考えるとところまでは至りません。よく、

「小学校で『扇の的』を扱われたら、中学
校で教えることがなくなってしまうよ」な
んて言われるのですが、あまり気にしなく
てよいのかもしれない。小学校のときに情
景を思い浮かべながら役割読みした「扇の
的」を、中学校では心情を考えながら登場
人物に成りきって群読する。そうやって、
学び深めていくおもしろさが味わえるはず
です。

宗我部 発達段階に応じて子どもたちがで
きることを引き出そうとすれば、おのずと
授業内容は変わってくるはずですね。ど
んどん重ねて教えていけばよいのではと思
います。

「同化(共感)」と「異化」

宗我部 「扇の的」では、与一が扇を射る
までに逡巡する場面と、最後に舞いを披露
した男をあっさりと射落とす場面が対照的
に描かれています。与一は扇を射るときは
あんなに迷っていたのに、男を射るときは
何の迷いもない。中学生は、そこにおもし
ろさを感じるようです。

青山 そうなんですか。小学生だと、与一
が男を射落とす場面を読むとシユンとして
しまうんです。だから、「扇の的」を教え
るときは、扇を射るところまでしか取り上
げないこともあります。

宗我部 小学校段階では、「扇を射る」と
いうドラマチックな場面で終わりにしても
よいのかもしれませんが。でも中学校では、
その先も考えさせたい。なぜ与一は男を射

声に出して読むとき、

「語り」ならではの 強さがある。

(青山)



あおやま ゆ き
青山由紀

東京都生まれ。筑波大学大学院修士課
程修了。私立聖心女子学院初等科を経
て、平成10年より現職。日本国語教育
学会常任理事、全国国語授業研究会常
任理事。著書に「古典が好きになる」(光
村図書)、「板書 きれいで読みやすい字
を書くコツ」(ナツメ社/樋口咲子共著)
などがある。光村図書 小学校「国語」
教科書編集委員を務める。



「同化する体験」と「異化する体験」、その両方を味わわせたい。

(宗我部)

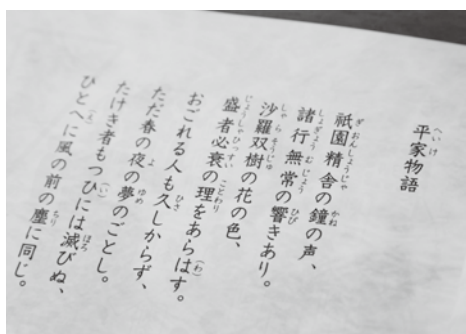
私たちは与一に共感し、同化して読むでしょう。しかし、平然と男を射落とす場面では、自分たちとはまったく違う「武士」なのだ、と、異化して読む。そうやって今の自分と比べて、同化したり異化したりしながら、その作品を味わうことが、古典を学ぶおもしろさだと思います。

大事にしたいこと

青山 小学生だと、今の自分と比べて読むのは難しいので、古典が「今の時代にも通じるなあ」と感じさせたいと思っています。そのために、私は『平家物語』の冒頭部分を学習させる前に、「荒城の月」と出会うようにしているのですが。

宗我部 「春高樓の花の宴……」で始まる唱歌ですね。

青山 ええ。明治期に作られた「荒城の月」



▲小学校では、5年の教科書に『平家物語』の冒頭部分が掲載されている。

落とすのに迷いがなかったのか、私は生徒たちに話し合わせました。そして、さんざん話し合った結果、「それが武士というもののなんじゃないか」という結論に達しました。人を射殺することが日常的に行われていた戦場では、むしろ扇を射ることのほうが異常なのかもしれない、と。

青山 ああ、中学生になるとそこまで考えることができるんですね。

宗我部 私は古典を教えるとき、「同化する体験」と「異化する体験」、その両方を味わわせたいと思っています。例えば、与一が扇を射るときに祈る場面。ここで生徒

城の月」と同じテーマであることに、子どもたちは気づくんです。『平家物語』の冒頭部分は言葉が難解なので、それだけを読ませて小学生に「無常観」を捉えさせることは難しい。でも、「荒城の月」に触れた後に読ませると、「榮え続けるってことはないんだね」とか「永遠のテーマなのかもしれない」などと、このテーマが、争乱の時代から明治期、そして今にも通じることを何となく感じ取らせることができます。

宗我部 『平家物語』の核心に近づくことができるんですね。

青山 『平家物語』のテーマはこの冒頭部分に集約されています。ですから、小学生だからといって、ただ楽しく音読させるだけでなく、その意味も感じ取らせたいと思っています。さらに「扇の的」など戦いの場面も紹介することで、「この続きをもっと読んでみたい」と感じさせられればと思

います。私は、興味をもった子どもにも『平家物語』を平易な言葉で訳した本や、漫画などを紹介するようにしています。とはいえ、小学校ではストーリーのおもしろさを追うところまでしかいけないんですね。中学校で人物の心情に迫って読んでいくことで、よりドラマチックに『平家物語』を味わうことができるのではないかと思います。小学校ではその素地を作ることが大事なんだと。

宗我部 それは中学校も同じです。生徒たちが高校に進学して古典を学ぶとき、「また『平家物語』を学習できるんだな」と思ったり、「もっと読んでみたい」という気持ちになってほしいなと思います。そのためにも、中学校では、登場人物に同化して読んだり、異化して読んだりしながら、人物や当時の人々の生き方について深く考えさせたいと思っています。

青山 『平家物語』をはじめ古典のよさっ



「全てわかり尽くせない」からこそ、おもしろさがどんどん増していく。

(青山)



て、「全てはわかり尽くせないこと」だと思っんです。小学校、中学校、高校と上がっていくにつれ、わかることが増えて、それまでに学習したこととつながっていく、おもしろさがどんどん増していく。

宗我部 そうやって学び、深めていけるところに、古典が時代を超えて受け継がれるエネルギーのようなものを感じます。

青山 子どもたちが、そのエネルギーを実感することができるのは、ひよっとしたら高校ぐらいなのかもしれない。でも、そこに到達するまで、小学校・中学校で重ねて教えていきたいものです。



実践1

群読で表現しよう

使用教材「扇的」(二年)

お茶の水女子大学附属中学校 教諭
宗我部義則

1 はじめに

本校では、一年生で谷川俊太郎さんの詩「朝のリレー」の群読台本をつくって読んだり、『平家物語』の「坂落」の場面をクラス全員で群読したりしています。そのため、「扇的」では、十人程度のグループで群読をさせることにしました。少人数での群読は、お互いの発表を聞き合えるのがよいところです。仲間たちの声の表現を聞くことで、自分たちの表現を振り返ったり工夫しようしたり、学び合いが生まれるからです。また、与一役やナレーター役をより多くの生徒に割り当てることができると、少人数で行う群読のよい点です。

2 指導計画(全五時間)

目標

▼「扇的」の文章を読んで、場面の様子や状況、登場人物たちの心情を想像する。
▼今と違う中世の武士ならではのところを

考えたり、心情など今の自分たちに通じるところを考えたりして読む。

▼発表のしかたを工夫し、全員で協力して発表を行う。

第一時 内容を大まかにつかむ

- ・全員で音読する。
- ・グループ分けをする。

第二時 群読台本をつくる

- ・どんな役を立てるか、原文を読み込んで決める。
- ・配役を決める。

第三・四時 読み方を考え、練習をする

- ・場面の様子や登場人物の心情を話し合い、読み方を工夫する。
- ・練習をして練り上げる。

第五時 発表

- ・グループごとに発表をする。
- ・他のグループが工夫している点などに注意しながら聞く。
- ・教師の講評

いので、対句になっているところは分けて読むなど、群読の表現がより豊かになるような助言をしていきます。

そして「読み担い」についても考えさせます。声質も考慮しながら担当を決めるよう指導します。生徒たちは「扇は優雅に舞うから女子の声がいい」などと話し合います。また、単純に一人ずつ読みを担当するのではなく、群読では「声を重ねる部分」をつくったほうがよいことを告げ、声を重ねる必然性のあるところを考えさせるようにします。そのときも「この場面を映像化したときに何が印象的に映し出されるだろう」と、映像のイメージを想起させるとよいでしょう。すると生徒から「鎧矢が扇に当たる瞬間は、扇と鎧矢がクローズアップして映し出されるから、扇と鎧矢の役がいっしょに読むようにしよう」などのアイデアが出てくるようになります。

群読台本は、教師があらかじめプランを考えておくことが大事ですが、基本的に生徒たちから出てきた意見をもとに分担を決め、台本づくりをさせるとよいと思います。

■読み方を考え、練習をする(第三・四時)
『平家物語』は武家物語らしい読み方をさせることが大事です。教師が「ころは二

月……」と時代劇のような重々しい読み方を披露してみせるとよいと思います。

「扇的」では、与一役の読みを磨くと、それに引き上げられるように群の読み全体がレベルアップします。ですから、与一の「南無八幡大菩薩……」という長いせりふをどのように読むかが鍵になります。生徒たちには、この部分の与一の心情を話し合わせ、どう工夫して読めばいいか考えさせます。

また、最後の「あ、射たり。」と「情けなし。」の読みも工夫しがいのあるところでは。教師は「こう読みなさい」ではなく「ここを工夫してごらん」と、「工夫のしどころ」を教えるようにします。どのように読むかは生徒自身に考えさせるのです。

■発表(第五時)

発表の前に「私たちのグループは」という点を工夫しました」と、自分たちの群読の工夫を説明させます。そうすることで、聞き手はそこに気をつけながら発表を聞くようになり、感想を述べるときも「間の取り方を工夫したと言っていて、たしかに工夫されていました、もう少し長めに間を取ったほうがより効果的だと思います」などと、具体的に話せるようになります。

3 指導の実際

■群読台本をつくる(第二時)

生徒たちには原文を掲載したプリントを配布し、それに書き込んで台本づくりをさせます。群読では「読み分かち」(どんな役がどこを読むか)と「読み担い」(誰がどう読むか)を工夫することが大事です。どう工夫するかを考える過程で、生徒たちがそれぞれの教材解釈を自由に出し合い、他の読みに触れて自分の読みを深めることができるからです。

まず、「読み分かち」についてグループごとに話し合わせます。生徒たちは、与一、源氏軍、平家軍、ナレーターという役を挙げてくるでしょう。それ以上思いつかないようだったら、教師が「他にも『何がどうなった』という視点で役を考えてごらん」。「この場面を映像化するとしたら、何がクローズアップされるだろう」などと投げかけると、扇、鎧矢、風、舟などの役が挙がります。さらに「扇的」は対句表現が多

4 おわりに

群読は練習が進んでいくと、個々の読みが影響し合い、響き合ってお互いの高め合いが生まれていきます。群読を取り入れることの、その発表に向けて力を合わせることのよさを実感する瞬間です。

『平家物語』は、重厚で躍動感にあふれ、読んでいて気持ちのよい文体です。群読の楽しみを存分に味わうことができる古典だと思っています。





実践 2

『平家物語』の列伝をつくらう (二年) 新しい指導を考える会

1 はじめに

『平家物語』は、人物が魅力的に描かれています。そのため、登場人物に焦点を当てた単元『平家物語』の列伝をつくらうを設定しました。列伝をつくることで人物像を分析的に読み取り、さらに自分の生き方に照らし、共感したり評価したりする力を身につけさせたいと考えました(※1)。

2 指導計画 (全11時間)

目標

- ▼「敦盛の最期」を読んで、登場人物について解釈したり、自分の考えに照らして共感したり評価したりする。
- ▼列伝づくりを通して、自分が選んだ登場人物について書かれた文章を解釈し、自分の考えに照らして共感したり評価したりする。また、古典作品の登場人物の生き方について考える。
- ▼友達の作品を読み、自分の考えを広げる。

導入 (二時間) 『平家物語』に関心をもつ

- ・DVD 『人形歴史スベクタクル 平家物語』(NHKエンタープライズ) 第五部を視聴する。
- ・『吉村昭の平家物語』(講談社文庫)を一冊配り、長期休暇中に各自で読む。

第一次 (二時間) 学習の見通しをもつ

- ・教師が作成した列伝の見本(※2)を見て、学習の見通しをもつ。

第二次 (三時間) 「敦盛の最期」を読む

- ・「敦盛の最期」を読み、敦盛に対する自分の考えをまとめる。
- ・教師の見本を見て、読み取ったことをどう言葉で表現するのか考える。

第三次 (五時間) 列伝を書く

- ・自分が選んだ人物について列伝を書く。
- ・第四次 (二時間) 友達の作品を読み合う
- ・全員の作品をまとめた『平家物語列伝』を読み、友達の考えに触れる。
- ・あとがきを書き、学習を振り返る。

3 指導の実際

■「敦盛の最期」を読んで、列伝づくりの基礎を学ぼう (第二次)

初めに、教師が作成した列伝の見本を見せ、列伝には、人物にまつわるエピソードとともに、書き手が「人物をどのように考えているのか」「人物の行動に対してどう思っているか」などが書かれていることを捉えさせました。

そして、「敦盛の最期」を音読し、全員で内容を確認。敦盛の人物像を捉えさせるため、マッピングの要領で、登場人物の行動やせりふ、その他読み取った情報をメモさせました。それをもとに、自分なりに敦盛を解釈し評価させました。その後、再び列伝の見本を見ながら、文章構成や図などをどう活用するかなどを確認させました。

■列伝を書く (第三次)

『吉村昭の平家物語』を読んで、人物を一人選び列伝を書かせます。生徒たちは、

※2 教師が作成した列伝の見本

タイトル
「武士列伝」「美女列伝」など

選んだ人物の名前

表題
あっぱれ大將軍

目次
一、敦盛について
二、エピソード
三、私の敦盛評

若武者列伝
一、平敦盛

二、平敦盛について

一、平敦盛について

二、エピソード

三、私の敦盛評

エピソードは二つ書かせる。どこを読んで、その人物を解釈したかわかるように。

人物についての簡単な説明

人物相関図などを書いてよい。その際、出典を明記させる。

「列伝」は4ページでまとめる。最後に、「私の敦盛評」などと題し、人物に対する自分の解釈や評価を述べる。

エピソードの中で、人物のせりふなどを原文で紹介させる。

4 おわりに

本単元では現代語訳を中心的なテキストとして用いましたが、列伝づくりに原文を引用させる場を設けたことで、生徒たちが自ら進んで原文を手に取り読もうとする姿が見られました。内容を理解し、作品への興味があれば、原文を読んでみたいという気持ちが起こり、ある程度原文の意味を捉えることができるのだと思います。今後、生徒が古典作品に親しもうとする姿勢を育む単元を考えていきたいと思います。

※1 この単元で言う「列伝」とは、紀伝体による歴史編纂法の一つである列伝から発想を得て、本単元用にアレンジしたもの。

筆者が教室にやってきた！

使用教材：「月の起源を探る」（三年）

前号（小誌71号）では、甲斐利恵子先生

が昨年度に行った「月の起源を探る」を
使った授業をご紹介いたしました。「筆者に
なったつもりで、月の起源をわかりやすく
プレゼンテーションしよう」という内容で、
生徒たちが教材文を読み解き、生き生きと
発表する様子をお伝えしたかと思えます。

その授業内容を、筆者である小久保英一
郎先生にお話したところ、興味を示され、
後日、甲斐先生の教室を訪問することにな
りました。全六時間の授業のうち、発表の
場面（第五時）を参観していただくことに
なりました。その様子をお伝えします。

■学習目標

今回、甲斐先生は、学習目標を次のよう
に設定し、指導をされました。

- ① 文章の内容を理解し、自分の言葉で
わかりやすく伝える。
- ② 書かれている文章から、筆者の考え
や意図（筆者の述べ方）を分析する。
- ③ 伝えたい内容を生き生きと話す。

②は、前号で紹介した授業にはなかった
目標です。「前回よりパワーアップさせた
かった」と話す甲斐先生。教材文の内容を

理解するだけでなく、科学者である筆者の
「述べ方」についても考えさせることにし
ました。そのため、単元名も変えて「科学
の言葉、科学の考え」としました。文章の
構成や使われている言葉から、科学者であ
る筆者がどのような効果をねらっているの
か分析しながら読むことは、他の説明文を
読むときにも役立つ力になることでしょう。
「筆者を想定して読む」という初の試み。
生徒たちはどのように小久保先生の文章を
分析し、発表するのでしょうか。

■学習指導計画（全6時間）

単元：
「科学の言葉、科学の考え」

第1時

- 学習の流れを知る。
（単元についての説明）
- 「月の起源を探る」を読む。
（教師の朗読を聴く）
- 見出しごとに内容を箇条書き
にしてみる。

第2時

- 内容の確認
文章を読む、解説を聞く、プ
レゼンの概要を知る。

第3時

- 筆者の「述べ方」を探る。
・「ダイコンは大きな根？」（1
年）を読み、段落の役割、述
べ方、キーワードを捉える。
- ・「ダイコンは大きな根？」を
材料にした発表の手引きを読
み、発表のイメージをもつ。
- 分担決め
・「はじめに」「不思議な衛星・
月」「親子が兄弟か、それと
も他人か」「衝突から月へ」
「月を作る実験」「新たな研
究へ」という六つの小見出し
を、1グループが一つの小見出
しを担当するよう割り振る。

第4時

- グループごとに、発表のしか
た、筆者の述べ方の工夫につ
いて、話し合う。
- 発表の練習、リハーサル

→ 第5時

●発表会

第6時

- 講評・まとめ、学習の振り返り

授業リポート（第5時 発表会）

■いよいよ本番の日

「わあ、本物だー」。教室に入ってきた
小久保英一郎先生を見て、生徒たちは一気
に盛り上がります。にぎやかになった教室
に始業のチャイムが響きわたり、甲斐先生
はこう切り出しました。

「さあ、とうとう発表の日を迎えました。
みんな、今日のためにがんばって準備して
きましたね。すごく緊張すると思うけど、
何が起ころうとも、きっと小久保先生は宇宙

のような広い心で受け止めてくださると思
います（笑）。今日の目標は『生き生きと
話すこと』。内容をきちんと理解して、自
分の言葉で話しましょう。明るい笑顔を忘
れないでください。そして、もう一つの
目標は『筆者の述べ方について、自分なり
の考え方を発表すること』。小久保先生が
どういう意図でこのような述べ方をしてい
るのか、中学生のみなさんなりに分析した
ことを発表してください」。

そして、生徒たちは、発表前の最後の練
習を行いました。小久保先生が見ている前
では、練習にも自然と力が入ります。

■グループごとに発表

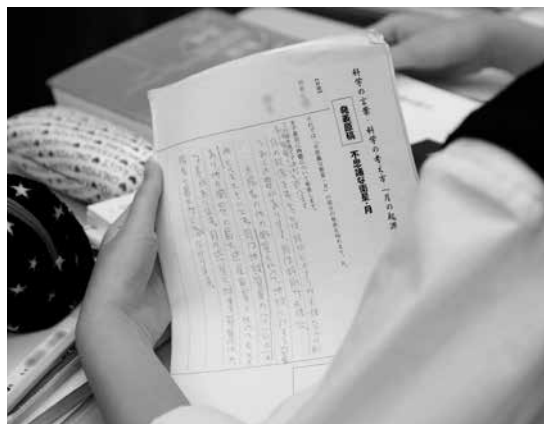
「では、発表に移りましょう。『はじめ
に』を担当しているグループ、前に出てき
てください」。甲斐先生に紹介され、四名
の生徒が発表を始めました。

* * *

生徒1 それでは、「はじめに」の部分の
発表を始めます。礼。（全員が礼をする）
生徒2 まず内容について発表します。こ
の写真をみてください（黒板に貼った教科
書P42の写真を拡大したパネルを指す）。
これは、月を宇宙探査機から撮ったもので
す。美しいですね。昔から日本人はこん
な美しい月を、「花鳥風月」や「雪月花」
と呼び、親しんでいました。こんなに身近
で美しい月を見て、みなさんも一度は思っ
たことはありませんか。なぜ月がそこにあ
るのか。



▲「みなさん、準備はできたかな」。甲斐先生の笑顔で授業がスタート。



▲発表原稿を見ながら、最後の練習をする生徒たち。



▲練習をする生徒たちの様子を見守る小久保先生。



▲「巨大衝突説」で説明がつかない点について、生徒たちにわかりやすく解説してくれた。

・分裂説・共成長説・捕獲説について、それぞれ親子説・兄弟説・他人説という別の呼び方も紹介し、中学生にもわかるように工夫していると思います。

・48ページの7行目では「研究は今日も続いている」と述べており、小久保氏が科学の発展に期待し、自分も当事者として研究していこうという姿勢が感じられます。また11行目の「どのような秘密が明らかにされるか、楽しみだ」

生徒3 次にこの図を見てください（黒板に貼った教科書P42の図1を拡大したパネルを指す）。これは、月と地球の半径をわかりやすく表したものです。地球は惑星で、月は衛星です。月は地球半径の約六十倍の所を約二十七日かけて公転しています。月は地球に最も近く、地球の他に人類が到達した唯一の天体です。今までさまざまな探査が行われたことで、月の組成や構造が明らかになってきました。しかし、その起源については謎が深まるばかりです。いったい月はどういう天体で、どのように生まれたのでしょうか。



▲パネル（教科書の図版を拡大コピーしてつくったもの）を黒板に貼り、それを指し示しながら説明していった。

■小久保先生より

そして、すべてのグループの発表が終わった後、小久保先生から生徒たちへメッセージが送られました。

* * *

みんなの発表を聞いて、「月の起源を探る」をしつかりと読んでくれているのが伝わってきて、うれしく思いました。「体言止めなどが使われていて科学者っぽくない文章だ」と発表してくれた子がいましたけれど、確かにそうかもしれません。普段、僕は理科系の文章ばかりを書いています。実は小説や古典を読むのが大好きなので、この教材では、自分の好きな表現を使って書こうと試みました。そこに気づいてくれたんだなと思います。

最近、僕が研究者として強く感じるのは、「国語」という教科はとても大事だと

では、科学に対する純粋な好奇心が感じられ、読者に研究は楽しいものだと感じさせることができます。

* * *

「小久保氏は……」と発表する生徒たちを見つめながら、小久保先生は深くうなずいたり、時にクスッと笑ったり。真剣に耳を傾けておられました。



▲生徒たちの発表に、熱心に耳を傾ける。

生徒1 次に「筆者の述べ方」について発表します。教科書42ページの3行目を見てください。小久保氏は月を「最も身近な天体」だと述べています。月を私たちの日常生活と結び付けて、読者を引き付けようとしているのだと思います。また、同じページの5行目では「花鳥風月」「雪月花」などの言葉を用いて、月が昔から日本人に親しまれていることをわかりやすく説明しています。

生徒4 小久保氏は、私たちが当たり前のようになっている月について、読者へ問いかけています。このように私たちの身近なものを問いにすることで、身の回りにはたくさんさんの科学があふれていることを示していると思います。それから、43ページの5行目を見てください。また、「月とは、いったいどのような天体で、どのようにして誕生したのだろうか」と、問題提起をしています。

いうことです。自分の考えを深めたりまとめたりするには、自分が知っている言葉を使いますよね。国語はすべての勉強の基本。小・中学校でしっかりと勉強してほしいと思います。

それから、教材文の中で「巨大衝突説」が有力であると書きましたが、実はこの仮説でも、まだ説明ができないことがあるんです（※）。そこを今、僕は大学院生たちといっしょに調べています。だから、まさに「研究は今日も続いている」わけです。

今日、みんなの発表を聞くことができて、この教材を書いてよかったなと改めて思いました。本当にありがとうございます。

* * *

割れるような大きな拍手と、生徒たちの笑顔で授業は締めくくられました。



▲「教材文を書くのは大変だったけど、書いて本当によかった」と話す小久保先生。

■「筆者の述べ方」についての分析

生徒たちは「筆者の述べ方」について、さまざまな分析をしていました。その一部をご紹介します。

* * *

・小久保氏は、43ページの9行目で「太陽系の他の惑星と比べ」と述べています。月と他の惑星とを比較することで、月の質量がいかに大きいかということを捉えやすくしています。

・43ページの18行目で「岩石の塊である巨大な衛星、月。」と述べています。倒置法や体言止めが使われているこの表現は、とても科学者が書いたものと思えません。物語を読んでいるような気持ちにさせてくれます。

ます。これは、答えを求めているのではなく、読者と疑問を共有する効果をねらっていると考えます。

* * *

「はじめに」を担当したグループは、フロアを見渡ししながら、明るい声で、生き生きと発表することができていました。その後、「不思議な衛星・月」「親子が兄弟か、それとも他人か」……と、発表は続きます。

授業を終えて

甲斐利恵子

昨年度に初めてこの教材を見たとき、正直自分には理解できないかもと、心配しました。そこで、教科書にある図や写真を見ながら説明できるかどうか挑戦してみました。すると、なんだか楽しいうちに、自分がどこまで理解しているのかが明瞭になってきます。これはいける！と思いました。

昨年度の生徒たちとは「情報をわかりやすく魅力的に伝える」という単元名で、「生き生きと魅力的に話す」を目標に学習をしました。内容も理解でき、とても楽しい単元になったと思います。

しかし、自分の中では、せっかく科学者の方が書いた文章だから、それを生かした単元にしてみたいという気持ちが出てきました。科学者の方がどのようなものを見方・考え方をし、どのような思いでこの言葉を使って文章をつづったのかを真剣に考

えてみたいと思ったのです。そこで、「筆者の述べ方」を分析する単元を今回は設定してみました。

小久保先生が教室に来てくださることを聞いて本当に楽しみでした。本人を前に筆者の意図について発表するのですから、おのずと熱が入ります。生徒たちは楽しそうに堂々と発表していました。

小久保先生の話がものすごくおもしろくて感謝しました。生徒たちは「月」「科学」「研究」「筆者」「言葉」を深く考え、身近に感じたのではないのでしょうか。



かい・りえこ

福岡県生まれ。東京都港区立赤坂中学校主任教諭。光村図書中学校国語編集委員。専門は国語科単元学習。著書に、『子どもの情景』（共著・光村教育図書）、『聞き手話し手を育てる』（共著・東洋館出版社）など。

生徒たちより

筆者の述べ方を分析するのは難しかったけれど、小久保先生が中学生にわかりやすく説明していることや、月の研究に対する思いがすごく伝わってきました。

(Sさん)

文章を分析したら、内容はもちろん、小久保先生の「月の起源」の謎を追いつける姿が伝わってきて、すてきだなと思いました。

(Nさん)

小久保先生の文章を分析したり、お話をうかがったりして、理科の授業で教わっていることは、誰かが人生をかけて考え、発見したものなのかもしれないと思うようになりました。苦手だった理科に興味がわきました。

(Iさん)

友達と意見を交わしながら、文章を分析するのが楽しかったです。小久保先生のお話もとてもおもしろかったです。もっともっと聞きたかったです。

(Oさん)

小久保先生の言葉を一つ一つ見ていき、どんな効果をねらって書いたのか予想するのがおもしろかったです。

(Hさん)

「月の起源を探る」の文章は少し文学的なので、科学的な内容なのに読みやすかったです。小久保先生の他の文章も読んでみたいと思いました。

(Tさん)

授業を参観して

小久保英一郎

「月の起源を探る」を書いてから、これは授業ではどのように読まれているのだろうかに興味をもっていた。この文章は、小見出しがあったり、図を使ったりとこれまでの説明文とはずいぶん違うところがある。

先生はどのように対応しているのだろうか。生徒はどのように読んでいるのだろうか。今回、甲斐先生の授業を見学する機会を得、少しときどきしながら赤坂中学校を訪問した。

授業は、文章を章ごとに班で分担し、内容をまとめて発表する、というものであった。生徒は筆者の意図や表現の工夫を分析する。自分の文章がまな板に乗せられてさばかっているのを観るのはこそばゆくもおもしろかった。「小久保氏は……と述べています」「小久保氏は……と表現しています」。なるほど、小久保氏はここではそういうことを伝えたいのか、と聞き入ってしまうほどだ。中学生に目の前で小久保氏、小久保氏といわれるのはなんともいえない経験

だった。そして、ここまでじっくり読んでもらえるのかとうれしく思った。緊張しながらも一生懸命に発表する姿はすがすがしい。

発表練習を聞いて歩いているときにある班で「『一月で一月ができる』という表現には、研究がうまくいった小久保氏のテンションの高さを感じられます」という分析があり、思わず苦笑してしまった。まあそういうことになるのかな。

授業の最後に話をさせてもらった。中学生のころの国語の授業の思い出、国語がとても大切な教科であると思っていること（なぜか拍手をもらった）、「月の起源を探る」執筆の裏話（小見出しを巡る闘い、親子説、兄弟説は最初は親娘説、姉妹説だったこと……）、今日も（今朝も！）研究は続いていること、などについて話した。話を聞く生徒の輝く目が忘れられない。後日、生徒から手紙をもらった。感想や励まし、自分のことなどが綴られていた。



こくぼ・えいじろう

宮城県生まれ。理論天文学者。東京大学大学院総合文化研究科博士課程を修了。国立天文台理論研究部教授。日本惑星科学会最優秀研究者賞、文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞。著書に『一億個の地球』（共著）、『宇宙と生命の起源』（共編著）など。

2 仮名を味わおう

書写の教科書では「仮名の誕生物語」（P38）というコラムで仮名の成り立ちを紹介しています。また「昔の人が書いた文字を見よう」（P57）では、江戸時代の作品を掲載しています。今回は、平安時代に完成した仮名の最高峰である「高野切」、雅な王朝貴族文化の象徴でもある「元永本古今和歌集」、そして実用の書として親しまれた江戸時代の作品を例に、仮名の美しさとその魅力についてお話ししたいと思います。

1 仮名の成り立ち

私たち日本人は、母語を表記するための独自の文字をもっていませんでした。中国から漢字が日本に伝わると、その音を借りて日本語にあてること、漢字を用いた日本語の表記が可能になります。やがて文字という概念と、言語表現としての機能が理解され、漢字が定着すると、今度はそこに日本独自の美しさを盛り込む意識が生まれ、優美にして華麗な日本独特の文字が誕生します。それが仮名で

す。もとは漢字を借りて表記したことより、借りた文字の意である「借名」が転じて「仮名」となりました。ちなみに漢字は「真名」（真の文字）といいます。

仮名ははじめ、楷書や行書で書かれていました。『万葉集』においてこの字体が多く使われていたことから、「万葉仮名」と呼ばれています。また、楷書を真書ということから「真仮名」、あるいは「男手」ともいいます。

平安時代になると、仮名は草書で書かれるようになります。これを「草仮名」と呼びます。表意文字ではなく、表音文字として日本語にあてるには、煩多な文

字ではなく、簡素化を進め、効率良く書き進められる文字が必要だったのでしょう。

仮名の発達は、平安時代の国風文化と大きく関係しています。仮名の興隆により、和歌や手紙、日記、物語などの文芸が発展し、それらを速くそして美しく書くこと、草仮名をさらに大胆に簡略化して書写されるようになります。これを「女手」といい、これが今日の「平仮名」に相当します。

2 仮名の完成 —平安時代—

平安時代の後期に、仮名の姿は完成しました。その頂点に位置する名品が、現存する最古の『古今和歌集』の写本である「高野切」です【図1】。柳の枝のようになやかな線が、よどみなく流れながらも、墨継ぎの濃い部分がアクセントになり、強弱の微細な変化をもたらしています。全体的にスピード感のある送筆です。鋒先のきいた、繊細でのびやかな線質、たおやかな連綿（続け字）の美しさなど、仮名の魅力を最大限に引き出している作品であり、仮名を学ぶための最良のお手本です。

「高野切」が書写された十一世紀半ばには、日本的優美な感性がうかがえる仮名が展開していきます。

仮名が完膚なき姿として完成された平安時代の後期には、意匠を凝らした装飾料紙が用いられるようになります。仮名を味わうもう一つの見どころが、この装飾料紙の美しさです。色とりどりの染紙や、型文様を摺り出した料紙、切箔をまき散らした料紙などが使われるようになります。【図2】は『古今和歌集』が

ウェブではご覧いただくことができません。

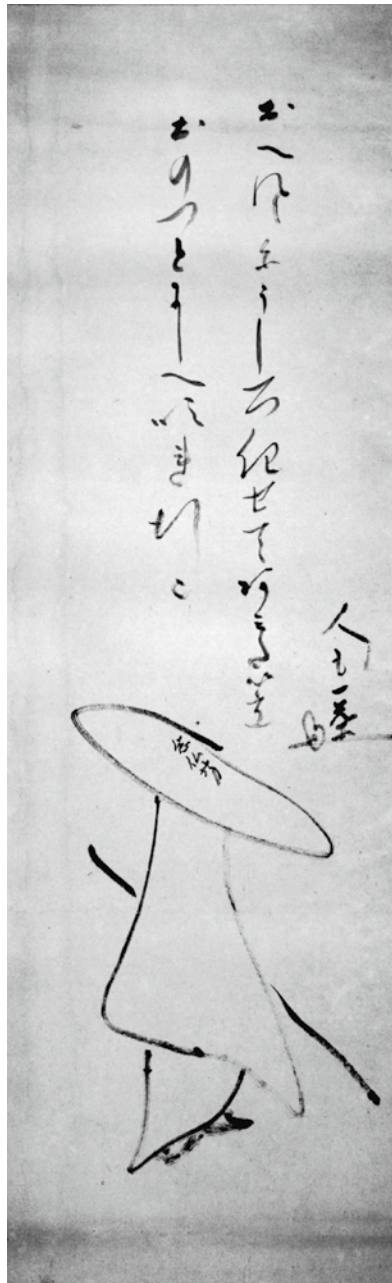
▶図1 高野切（東京国立博物館蔵 部分）

ウェブではご覧いただくことができません。

▶図2 元永本古今和歌集（国宝 東京国立博物館蔵 部分）

小林一茶の掛け軸を紹介しましょう【図5】。上段の和歌は、おっとりとした書風で書かれ、まさにふわふわと風に吹かれるままの雰囲気がよく出ています。下段には、笠をかぶった念仏坊が描かれています。そして書画ともに一茶がかいたことを知らしめるかのように、「人も一茶」という花押入りの署名を冒頭にもつてきていますが、結果として、和歌と念仏坊と署名の配置は絶妙な位置関係になっています。右下がりに傾いた念仏坊の笠の上にできた空間を利用し、そこに署名を書き入れるあたりに、一茶らしい個性的なバランス感覚を見ることが出来ます。一茶が心から楽しんで書いている微笑ましい作品です。

▶図5 小林一茶・短歌軸（台東区立書道博物館蔵）



おへ風にうしろらせてあみだ笠 おのづとにしへ吹れ行也

平安時代以降、書は上流階級の人へのみ書かれていましたが、江戸時代になると寺子屋での習字教育が盛んになり、書が一般庶民にまで普及しました。特に松花堂昭乗の書は手本としても広く学ばれ、実用性を伴いながら伝承されていたのです。

安永稲子
鍋島稲子

台東区立書道博物館主任研究員、筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。博士（芸術学）。東京国立博物館客員研究員。大阪教育大学非常勤講師。

江戸時代の仮名に触れよう

書道博物館企画展
「中村不折コレクション 江戸ワールド」のご案内

現在、台東区立書道博物館の企画展「江戸ワールド」（～9月25日まで）において、今回ご紹介した江戸の名品が展示されています。墨の濃淡や線の強弱、文字の配置、連綿の美しさなど、本物でなければ味わえない、日本人特有の仮名の世界の奥深さを間近で見ることができます。みなさんも博物館を訪れて、日本人のアイデンティティーを探してみませんか。

台東区立書道博物館

■入館料：一般 500円(300円) 小・中・高校生 250円(150円)
※()は20人以上の団体料金

■開館時間：9：30～16：30（入館は16：00まで）

■休館日：月曜日

■電話：03-3872-2645

■アクセス：JR鶯谷駅から徒歩5分

■HP：http://www.taitocity.net/taito/shodou/index.html

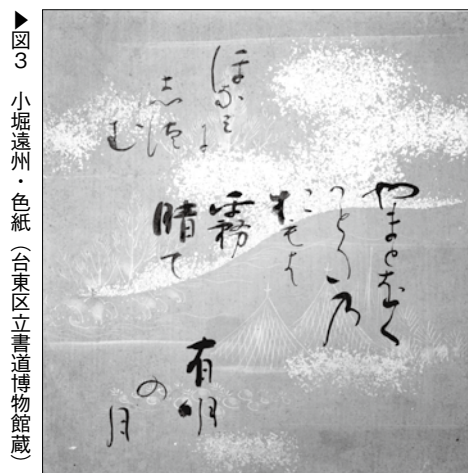
3 伝統と実用の仮名

—江戸時代—

江戸時代は、天皇や公家によって脈々と受け継がれてきた平安時代後期の伝統的な仮名をもとに、美しさと強さを兼ね備えた、躍動感あふれる個性的な仮名が出現します。

【図3】は、江戸時代の大名で茶人として知られる小堀遠州が、和歌を色紙に書いたものです。鎌倉時代の歌人・藤原定家の書風は、後に定家様という一つの

原装のまま完全に残っている最古の写本「元永本古今和歌集」です。料紙の色は赤、白、緑などをベースに濃淡の変化があり、文様は唐草や波、菱文様、亀甲文様などが施され、さらに金銀の切箔や砂子などがまかれるなど、さまざまに装飾されています。料紙の色調に合わせて墨を濃くしたり、筆圧の強弱をつけたりと、装飾料紙の特色を活かして書かれた仮名はよりいっそう輝きを放ち、表現の幅も広がっています。王朝貴族の美意識の高さを如実に物語る好例といえるでしょう。十二世紀の仮名は、多くの作品がこのような美麗な料紙に書写されています。

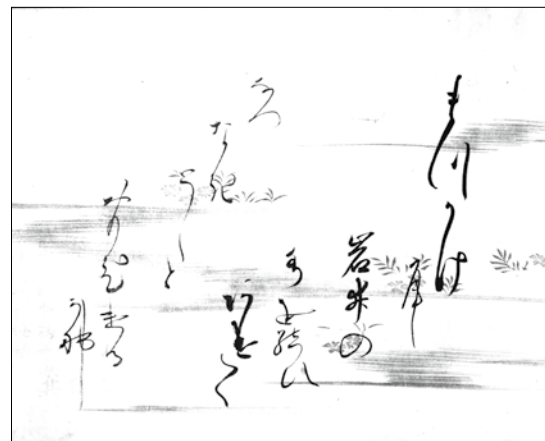


▶図3 小堀遠州・色紙（台東区立書道博物館蔵）
やまとをくかどたのおもは霧晴て
ほなみにしづむ有明の月

様式として確立しますが、小堀遠州の書風はこの定家様を踏襲したもので、コロコロとした個性的な文字を書いています。三段に分けた紙面構成で、二段目の「やまとをく」が書きだし、そして上段、最後が下段の順に書かれています。

字配列も特徴的で、右上から左下に向けて斜めに線を引くと、上の句が右下の三角形の中に、下の句が左上の三角形の中にそれぞれおさまっています。また、前半は墨をたっぷりとのせ、大らかで力強く、後半は女手のように細くキリリとした線と美しい連綿でまとめ上げています。上の句と下の句の対照的な構成もまた見どころの一つでしょう。

最後に、今年生誕二百五十年を迎えた



▶図4 松花堂昭乗・書巻（台東区立書道博物館蔵部分）
まつかげに岩井の水を結びあけて
なつなきとしとおもひけるかな



青山由紀／著
吉永直子／まんが

A5 版変型 (200×220mm)
168ページ
定価1,400円＋税
ISBN978-4-89528-683-1

好評
発売中！

「小学校国語教育相談室」で好評連載していた、
青山由紀先生の「古典って楽しい！」が本になりました！
小学校古典の授業を、まんがで分かりやすくご紹介。
そのまま授業に使える資料も豊富に掲載しています。
古典の苦手な先生、若い先生、
ちょっとユニークな授業をしたい先生におすすめです。



- まんがで見る授業の様子
- 具体的な学習のねらい
- 分かりやすい指導のポイント
- そのままコピーして使える資料

[取り上げた教材]
竹取物語／昔話「桃太郎」／枕草子／
平家物語／季節の童謡・唱歌／
春の短歌・俳句／俳句を作る／
故事成語／漢詩／論語

なるほど
好きに
古典が

授業
アイデア
10
青山由紀の
まんがで見る

平成26年度用教科書 訂正のお知らせ

平成26年度用教科書では、平成25年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には、十分ご留意くださいますようお願い申し上げます。

■国語

学年	ページ	行など	25年度	26年度
3年	50	下10	同じものを <u>二つずつ</u> 選ぶ。	同じものを選ぶ。
		下13	<u>薄暮</u>	<u>暮色</u>
		下16	カ 若 <u>千</u>	カ 若 <u>輩</u>

■書写

ページ	行など	25年度	26年度
1	上段左	ほかの学習に… 学校生活に… 日常に…	他の学習に… 学校生活に… 日常に…
3	下段右	図版（散氏盤 西周）	図版変更（散氏盤 西周）
4	上段左	行書五言律詩軸 明	行書五言律詩軸 明・清
56	下段左	祇園精舎	祇園精舎
64	上段左	「火の鳥」漫画少年版（一九五四年）。 せりふやタイトルも手書きで書いている。	「火の鳥」漫画少年版（一九五四年）。 せりふやタイトルも手書きである。
87	中央	段落の <u>はじめ</u> は1ます空ける。	段落の <u>初め</u> は1ます空ける。

平成26年度「言語教育振興財団」研究助成金一般公募

言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門） ②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門） ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）
研究期間	平成26年4月～平成27年3月（原則1年間）
応募資格	言語教育（国語、英語、日本語等）に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位を含む）
助成件数及び金額	助成件数は50件まで。助成金額は1件につき20万～40万円
応募方法・締め切り	・所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、平成25年12月20日（金）必着で、当財団事務局に郵送。 ・申請用紙を希望される方は、返信用封筒（80円切手添付）を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。 ・この応募要項については、都道府県教育委員会等推薦の場合も同様に扱います。
決定・発表	当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果を平成26年2月末までに通知。 平成26年3月末に銀行振り込みで交付します。
問い合わせ先	財団法人言語教育振興財団 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL 03-3493-7340 FAX 03-3493-2174 E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp